

ポンカイ・バル村のアスベスト屋根の状況について

遠山勝博

第1 ポンカイ・バル村の概要

住民たちが現在のポンカイ・バル村に移転したのは、1996年1月である。JIBCによる援助効果促進調査(SAPS)報告書の「付属書3.7 ポンカイ・バル村」(TB第14号証 87頁～97頁)によれば、移転時の世帯数は200で、その住居は「木製の壁、セメントの床、アスベストの屋根」と記録されている。

第2 アスベスト屋根の調査概要

- (1) 2011年4月12日、遠山勝博がポンカイ・バル村を訪問し、同村のアスベスト屋根を使用した家屋の状況を調査した。当日、村役場を訪問してムスタパ・カマル(MUSTAPA KAMAL)村長に聞いたところ、現在も77世帯がアスベスト屋根を使った家屋に居住しているということであった。
- (2) 調査時点で目にした住居の屋根は、ほとんどがアスベスト製であった。作られてから15年が経過し、熱帯雨林地域の過酷な自然条件のため、材質が劣化していた。少し力を加えると簡単に崩壊する状況である。該当家屋の数が非常に多いため、全てを確認・記録することは出来なかったが、その一部が写真撮影報告書である。そして、撮影した住居の場所は別紙の地図に対応している。

以上

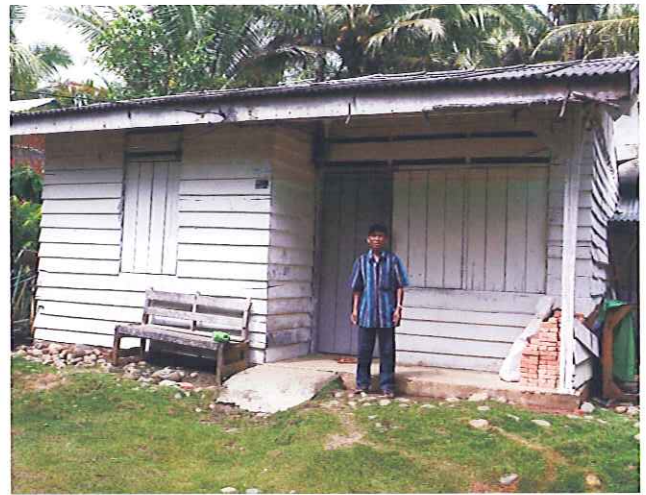
写真撮影報告書

撮影日 20011年4月12日

撮影場所 ポンカイ・バル村
(desa Pongkai Baru)

撮影者 遠山勝博

上左:地図① 所有者 AGAM
上右:地図② 所有者 MUDAR
下左:地図③ 所有者 AHMADI
下右:地図④ 所有者 ASMALELI



上左:地図⑤ 所有者 JARUNA
上右:地図⑥ 所有者 ARNIAS
下左:地図⑦ 所有者 SUIB



ボコイ・バル村 住宅部分拡大地図

